令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　**美術**　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	・定期考査の得点状況から、基礎知識の定着には大きく個人差がある。 ・小学校までの既習事項にも差があるようである。また、習得した技法・道具の扱い方などを活かして応用する意識が低い生徒も多い。	・既習事項の定着が弱く、基礎知識の復習が必要な状況である。 ・基礎技能の習得・定着は個人差が大きい。	・単純な知識的内容（名称など）の定着は見られるが、意味や内容を説明するなど一歩踏み込んだ理解に及ばない生徒が少なくない。 ・基礎技能の習得・定着は個人差が大きい。
学習状況	・学習内容に関心をもち、意欲的に取り組むことができる生徒が多い。 ・難易度が高めの課題に対しても、粘り強く取り組む生徒が多い。 ・作業になると、ペースが遅く時間内に終わらない生徒が２～３割ほどいる。	・学習活動に意欲的に取り組むことができる生徒が多い。 ・見通しが甘く、制作を計画的に進めたり、調整したりすることができていない生徒が多い。	・与えられた課題に取り組み始めてから徐々に意欲を増す生徒が多いことから、予めイメージをもち、見通しをもつことが苦手であると考えられる。 ・作業ペースの個人差が大きく、自己調整に課題がある。
生徒アンケートの結果より	・「めあて」の確認や、振り返り（まとめ）の時間が不十分である。 ・意見交換等のグループワークが少ない。	・説明をより簡潔に行う必要がある。 ・めあての確認とまとめの時間が不十分である。 ・ICT などを使い視覚に訴える教材を工夫する。	・説明をより簡潔に行う必要がある。 ・授業内の作業時間や、めあて確認とまとめの時間がより必要との回答もわずかにみられる。

【授業改善の手立て】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	・めあてを分かりやすく提示する。 ・作業時間を調整し、振り返りの時間を確保する。 ・題材の導入などのタイミングで、グループで課題解決に取り組む時間を設定する。 ・適宜既習事項の復習を行い、基礎知識の定着を図る。	・口頭での説明を最低限にし、スライドや板書などで視覚的に理解を促す。 ・めあてを分かりやすく提示する。 ・ワークシートに振り返りを記入させる。	・口頭での説明を最低限にし、スライドや板書などで視覚的に理解を促す。 ・作業時間については事前に計画を立てさせ、見通しをもたせる。 ・めあてを分かりやすく提示し、学習内容のまとめも簡潔に行う。
評価方法	・２学期の生徒アンケート項目５、６の結果によって評価する。 ・定期考査や生徒の振り返りを通して学習内容の定着を見とる。	・２学期の生徒アンケート項目１、５の結果によって評価する。 ・生徒の振り返りから見とる。	・２学期の生徒アンケート項目２、５の結果によって評価する。 ・生徒の振り返りから見とる。